

会長挨拶

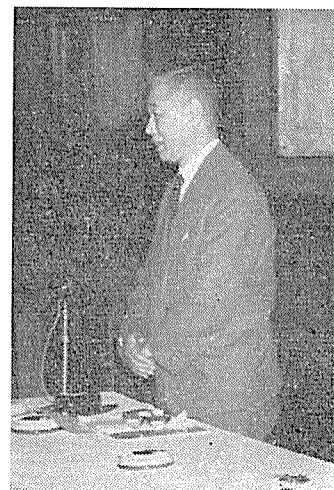
社団法人としての発足に際し

会長 工博 坂 静 雄

プレストレスト コンクリート技術協会は昭和 33 年 2 月に発足したから満 2 年余の歳月を経た。この間吉田徳次郎前会長はじめ役員諸彦の御努力により、また賛助会員諸君の財政的御援助によって、着々発展して、本年 4 月念願である社団法人プレストレスト コンクリート技術協会として再発足することとなった。これは人間でいえば国家公認の国籍ができ、戸籍ができたようなものと思う。まことに同慶の至りであり、また公の機関としての責任の重大さを感じるものである。

もともと本会は当初から国際プレストレスト コンクリート協会 (FIP) の一員として活動する使命をもっている。従来は欧米の技術を吸収し、これを消化するだけに手一杯であった。これでは国際的協力にはならない。日本において研究され、発展された技術を先方に自由に使用して頂くこともなければ対等の立場の一員とはいわれない。日本における PC 事業も年々発展して今日では直接関係この事業に関与する人も多くなり、研究者の数もそれにともなって増大している。本会を通じこれらの方々が一致団結して国際的協力の基礎を養って頂きたい。

本会の現会員数は約 500 である。これは前記の PC 人口にくらべてきわめて少ないと思うし、学術団体の経済単位として普通では成立しにくい会員数である。それにもかかわらず本会がそれ相應の活動をなし得たことは、もっぱら賛助会員の御厚意によるもので、感謝にたえない。しかし今後の会の健全なる発達のためには、普通会员数をまし、普通会员費の総収入に対する割合が年々増大してゆくことが望ましい。それにはもちろん本会の活動が活発となり、一そう魅力のあるものとならなければならない。本会の機関誌は幸い好評を博して、本年度からは年 6 回の発行をお約束している。これも月刊誌に移る過渡的のものと考えている。また既設の委員会は現在編集を別として 2, 3 あるにすぎないが、これは会員相互の討議の場ともなり、その得た成果は機関誌あるいは講演で報告してプレストレスト コンクリートの普及上にも、また会員一般にもひ益することが多いと考えるので、今後も問題を選んで委員会の設置を進めてゆきたいと思う。委員諸君には献身的の御努力を願うことになるが、なるべく多方面の問題をとりあげ、それぞれに関心をもつ方々に委員として参加して頂けることを望んでいる。今は故人となられた田辺平学博士がある協会の懇親会の席上、会員には講演会員、見学会員、晚餐会員への 3 種類があるとの名言を吐かれたが、年令層もあってかような色彩がつきやすい。本会会員にはプレストレスト コンクリートに対する十年以上の経験者はきわめて少なく、会員の平均年齢も他の学協会にくらべると低いと思われるので、各種行事に普遍的な会員の参加を得ていることはまことに喜ばしい。今後もこの傾向を一そう助長してゆきたい。



総会において挨拶される坂新会長